Centimetres
KODAK Color Control Patches ©The Tiffen Company, 2000
Kodak LICENSED PRODUCT
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

ル 4
283

門 ル呂4
號 283
卷

序

予看違和於坊亦之次有亦兵庫名所記者
閱之雖匝憂系交於一州其畫中有巡川江
海也有曠野邨落也亦神祠梵宮廢宮荒墳
森森亦既多哉將以區別乎方程按計乎故
事若夫貴客之歌賞騷人之詩賦及山翁漁
父之談閭巷傳聞之語共收並貯之愛而採
之不得不廣則載之亦不能不冗也然裁制

之互最得簡而潔予嘗遊於其地目擊厥二三焉今也接此無索之則不賴編地之術而瞭然乎凡席之間美矣吾子勤焉且夫家務煩擾之餘猶來會晤之徒森非潦倒杯酒淡惑樹梅浪度日之支音而尚伦此好事苟可謂有所用此而不徒消回春哉矣

寛永庚寅端五日

州澤醫生識

凡例

一初丁に大概の摠圖として最方角を引

一上乃巻ハ兵庫より近き名所を先らて艮北乃方西之宮まで五里の間且く又廣田より上神崎迄乃志るべよ若陽九古跡迄を同巻の末に遍加

一下の巻ハ兵庫より南西の方摂津播磨丹波の境川まで凡二里名所旧跡ゆて漏洩

一名所の古歌諸集より出し載るこ紀ハその数多し一二首充是ゝ

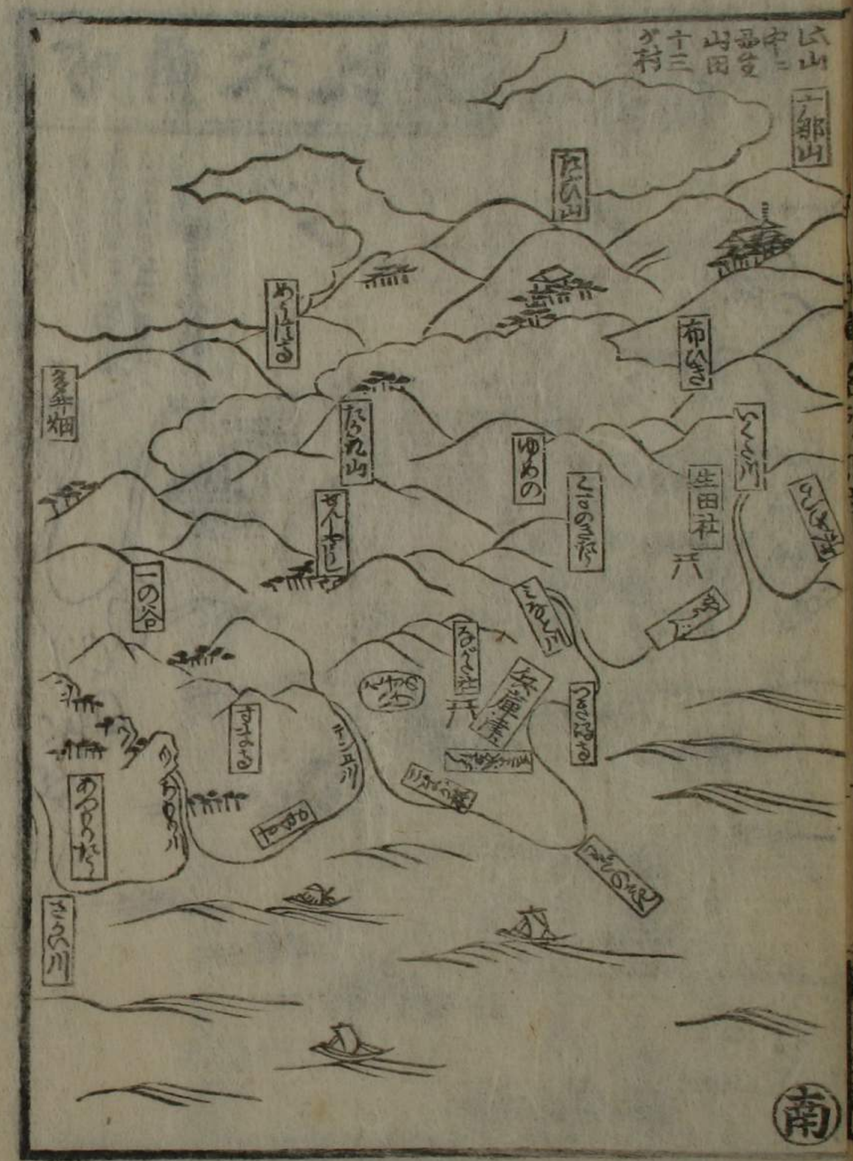
一所こ九ゆ数と積見兩の巻後丁に集む亦広き乃法も除ゝ

攝津

故老俗傳云天探女神天磐船ニノリ此國ニ攝タル高津ノ号ヲ取テ攝津ノ國ト稱ス亦漢書云攝然トシテ天下安云云字彙云攝ハ靜謐ナリ兩儀相共ニ要津ノ連續ニ取テ大上國トス上管十三郡所謂

一西成　一住吉　一百濟　一東生
一武庫　一島下　一豊島　一川邊
一兎原　一島上　一八部今番部三字ニ作一能勢
一有馬

此記の郡名い矢田郡郡兎原郡乃二郡ありて武庫川ノ名のみ郡名を加へる



兵庫名所記巻之上目録

一 福原都の事 ○並に地形の事
一 来迎寺 ○つき落とす天宝
一 若狭守経俊塚
一 小宰相の局石塔
一 雪見の御所
一 鵯越
一 安徳帝假皇居
一 楠正成塚 ○石碑図
一 宇治川
一 築島の由来 ○経の島
一 佐比江
一 湊川
一 みをし山
一 菱野村 ○氷室のこと
一 天王谷
一 差方塚
一 廣厳寺 ○楠正成ゆかりの
一 毒虫山太龍寺 ○蛇谷

一神戸村
一河原兄弟塚
一生田大明神
一梶原井
一北野天神
一布引の滝 ○日寺
一小野坂 ○日崎
一生田里
一摩耶山忉利天上寺
一船寺八幡
一花熊城跡
一生田森
一籠梅 ○敦盛萩
一塩ケ口印石
一生田川 日山 池 浦 磯
一砂子山
一敷馬の浦 ○日寺
一同若菜
一求女塚
一弓弦羽嶽

一御影山
一鬼塚住吉社
一山路嶽遠 日湯
一葦ノ屋里 日洋 沖 浦 海
一湯元の藥師 日松
一阿保親王御廟
一御前沖 日廣

追加

一廣田社
一鷲林寺
一御影森 ○羅松原
一灘田浦 ○五百濱
一本庄稲荷 ○おとうれ
一夜鳥塚
一井出村 ○金津山
一宿河原
一西のこうや 長十丈位
一武庫山 六甲山
一感應寺

一角の松原
一鳴尾浜　里
一小川浜
一琴浦明神
一雑波の里
一大物の浦
一長洲村
一津戸村
一おしまや
一武庫川
一猪名川
一野江
一浦の物語
一神崎

兵庫名所記巻之上

一　福原都の事

抑摂津の國矢田部郡福原の古兵庫へ應保年中に築島成就し、後平相國清盛入道浄海の御沽らして以前より新と繁昌し、院ふたゝび成く治承四庚子六月二日人王八十一代安徳天皇今年三歳一院上皇御改殿どもゝ有まゝ古改大江山下月卿雲客平家あいを改入道を初一門の人々ゝ百官人民ゝ〻くゝ山陽の西海安藤より以福原に移り人池大納言牧籠乃山庄皇居し成（基田村ホ古改あり）同九日新都ゝ初

をべきとて上洛ふハ徳大寺の左大将実定土佐門
宰相中将通親奉行ゆへおたせう殿行幸ふりく
の友夫をたつく和田乃れ家西ハ世をてんぐ九
嶽乃北ハ剣の志ゆ海ハ一条うゆ家こハ西
てくてゆ北ハ公ハまらく金義ゆうごを百
貴の改茅ハ行ゆてゆ信くハ又変改あるとて同しき
○九月十一日田舞ハ還幸ゆ〻ゆゆ改入乃ゆ
世世ハ志ゆ〻く信ゆゆ
○後京殿舞地の事源平盛衰記ハ云ハ神的
金改生田廣田西乃天満宮を並ゆ〻ゆ世代の
志ゆ〻て雀の松原清新乃れ代ゆ〻ゆ無録ゆり

雲井ハ晴と布引の滝乃白玉岩間ハつゆ〻ね後を顧
ハ海原ハ雲のゆと接ハ暁乃嵐の漢くゆを吐おて西ハ
蒼海乃天を望ゆ〻せり夕陽ハ沈ゆ〻ゆを呑ゆ海乃
漫ゆ〻て遠帆ゆ浪ハ清まゆれ巨海花ゆて
眺望煙波ハ眼を遮ゆ月のゆを待ゆ須ゆ
法師乃ハ山ゆ〻ゆ〻ゆ蛍火燃ゆゆ〻ゆ里ゆ美の書
いづゆもゆ〻ゆ〻ゆ〻

きうのがく元の書海と云ふを寺て同三年三月下旬
の波民新成良まれとして築ろに又南風おこりく
急白波をうつきう又海を渡りしかやより波よ成船の内
故小船の博士阿倍の泰氏と云ふ人ぬ術をいく考へけるに此海通例あり
かうへ人船を入く築しの船ひあべ成船すべきこと云に
依く面白生田のかれに図をすへ船主の旅人どかうめ
捕へしに大歎ぶ家臣に私を児
童ひきどもの人ども依人の歎と長く我一人山海
に入て命に替んと誓白馬に白鞍おきち海内ふ
りしとりや長く又教のうなよ一切絶と寺写し彫付て

海底よ入しに諸よ龍神納受ありやを海法ふ
ろく此海成船して世界の新乃恐ろく玉家の宝来代
の規模と為り為く統乃海と云名付ろり又築寄
奥立の事 義安三癸己年ともいの里

一 築海寺　今兵庫町家の内東海ろ云ふ
浄土西山流紀寄山来迎寺と号し平清盛公より創
ろり應保元己七月十三日海供養あり往昔ハ堂物
藍の名場ありしと建武の法破却すろ中絶

一 女堂阿弥陀　ちうんの仏　一観音寺　和田岬海底にあり人ハ仏ろり

○霊窟

一 人柱の岩　松王十七さの木ぞう　一清盛塚の伝　五十ハ塚乃附

一繼乃釈迦　憍曇弥髪すり　一矢財天像　弘法大師作ます
一梅の実よ　伽藍彫刻の像　しか什物ふくろ
一經乃塚　　薬師如来　建武の比服部右衛門作
義助海苔又当氏そうの里西玉へ落ゆく
一佐比江　　兵庫小漁んづま西
後撰　ゆと絶くふこうしためさひ　ふかるも荒ふく今七絶へき　恋
一若狭寺平泉衡塚　右さひへのつぐさ京れ本ゆの里
歌永久中一の谷合戦落城乃日形和の古跡に討ま絶
一濱川　　兵庫小の出口門より二丁余街乃の川
千載　みなと川和丹清出る絶風ふ麻の葉さへ漁ま絶ふ
夫木　濱ゆかうし波へ　ふくまて湯る世月西比　西

一小宰相の局の墓　漆川の上鳥尾村に成高院にあり
山はだ〇八越前乃三位通盛乃寵愛の人なり通盛一の谷ゆく付きの人を勅さ寿永三年二月十四日
船より生身を投げ果給ひ不孝の者に夫婦の石塔をたて今に古跡残る

一漆山　川乃西上にあり
みなと山ことゝ小原ゝ風小絵橋の松い波やかゝん　徒太郎左合
一雲丸の法所　御乃なか山の手漆山すそにあり
後京都の三位清盛公雲丸の亭と是なり八旧跡なり
一閑鶏の野　一名ハ鬼鶏神
今菱神村と云兵庫より十丁ばかり西ゝ丸禁に一村あり

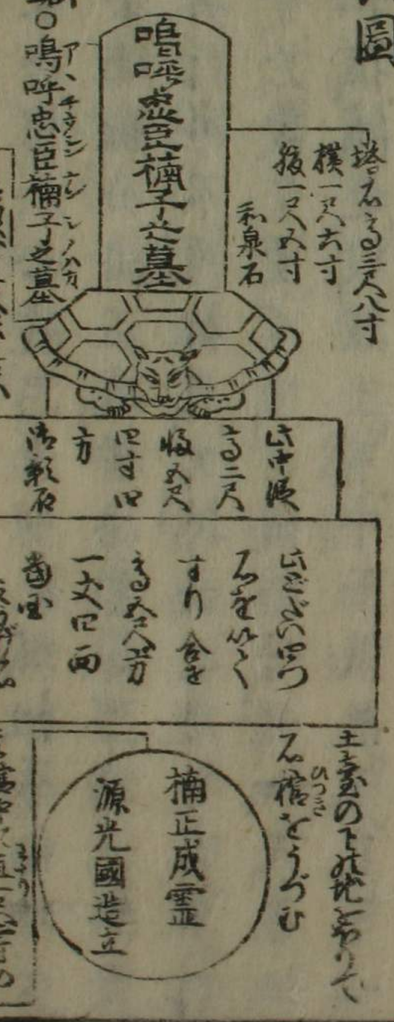
○氷室を始て作られしは仁徳の御宇なり
ひむろ樹きは山不動室の松えんとくいんどもゝ流つまよひ
らっかんば蓋北のひむろハ古紀澤みり
〈法けのれに大宮ゐかきあさろ氷室今を絶せうりけゝ
いかゝ〉の法けれ〉は猶こ祇りやや氷室氏もあるそ猶ん 中務卿子
日本紀曰仁徳天皇の御宇鄙田中邊皇子の閑鶏北
に猶し猶ふ附皇子ふうり帰くく北中と月あるる宮あり
法皇稲垂大山まと白く同月の氷室と皇子
のいくくちおさひる事いりん又俗のかうもも稲垂の
ひとゝ上と猶く丈余より事とりけくそのうへにおが
敷く敷茅萩を敷きこりを以くを上よおきすで

小夏月を繰く洗ぎを放よすあうち燃春にあ
ふ月く湯みひくく夏月と氷室りを猶
来りを猶ひ法師より来る天皇ようこひ見ようが
剣のそにのりてうみて氷を納め玉ひ
にひりて氷を望んを見より御室とりこうを
まり
出家集 〈氷室おもねさわにそ長りを蓋をかくやゆん 西行
夫木 〈食て忘て俗ら人室の長野の森ゆりあにうく 長明
又日本紀云仁徳天皇秋七月八日乃皇女と宮こ
まゝ湯く避異のかくき毎氷室の吉守も
この蓋さあうにして猶のれく蓋かを月蓋に及く

鹿ハ[illegible]ハ天皇后[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]の[illegible]ハ[illegible]の縣乃[illegible]ハ[illegible]
を献ぜ天皇[illegible]を[illegible]て[illegible]を[illegible]ハ牡鹿[illegible]
[illegible]ハ鹿ごと[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]の[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

一天王谷　兵庫より半里程有馬の温泉より
いろいろの名所より岩口より午頭天王の宮あり祇園の社神素盞嗚尊をまつり牛頭湯の山へ
六里なり山なり
一安徳天皇御皇居　蓮田村とゝろのうへ兵
庫より八丁許　福原新都の皇居の跡
大納言平の教盛卿の山荘乃所
一差方塚　蓮田村小字柳の中に塚　京都あり
治承四年六月九日福原新都の時の緒大納言國
綱卿治うけ給りて此塚を築造り泥塔婆を立
一里内裏を造らるとなり

一楠河内判官橘正成塔
兵庫より小林村の上に坂本村のお墓中程にあり
塚の上楠の二本あり　うえ縁の水戸
黄門光國公古墳とさいとうあり碑石を建る
其圖



忠孝著乎天下日月麗乎天天地無日月則
晦蒙否塞人心廢忠孝則亂賊相尋乾坤反
覆余聞楠公諱正成者忠勇節烈國士無雙
蒐其行事不可概見大抵公之用兵審强弱
之勢於幾先洩成敗之機於呼吸知人善任
體士推誠是以謀無不中而戰無不克誓心
天地金石不渝不爲利回不爲害怵故能興
復王室還於舊都諺云前門拒狼後門進虎
廟謨不藏元兇接踵攝殺國儲傾移鍾虡功
垂成而震主策雖善而弗庸自古未有元帥
妬前庸臣專斷而大將能立功於外者卒之
以身許國之死靡佗觀其臨終訓子從容就
義託孤寄命言不及私自非精忠貫日能如
是整而暇乎父子兄弟世篤忠貞節孝萃於
一門盛矣哉至今王公大人以及里巷之士
交口而誦說之不衰其必有大過人者惜乎
載筆者無所考信不能發揚其盛美大德耳
右故河攝泉三州守贈正三位近衛中將
楠公贊明微士舜水朱之瑜字魯璵之所
撰勒代碑文以垂不朽

右碑文十行跋文二行都合字數三百三十字也

円雨露の覆ハ尤普三間四方也

一　菩提所　坂本村西こんごうしにあるなり

開山廣嚴寶傳禄ゑし号也後だいご天皇位勅願

開山婚惠法地和尚為剣ゑ高業堂を瑞龍殿と

称し正成の彫像あり　一代祝うり

○正成戦死建武三年丙子五月会五日

○開山明徳元年庚申九月会七日と南もれあり連板

よ書也

楠正成同男正季ゑ戦死の家臣十六人法名

七十三人自害と云正成四十三歳

○廣嚴寺ハ東よ大聖山安養寺と号し真言宗

南紀法隆寺末寺あり

一宇治川　長廣ハ八丁小橋ハ宇治川ゑ上を通り

宇治郡村名ゑ中文村と号あり

一再度山大師堂　長廣ハ四方ゑ高サ五尺

坂口ハ宇治郡村名ハ尤ハ弟子

△中ゑ地蔵菩薩　此仏伝ゑあり

称尚山ゑ始ハ尼山と号ス法華の法宇神護寺ゑ

年亜相和氣清麿ゑ小ゑ基偉ハ一刀三

礼の地蔵菩薩ゑ自ら彫刻ゑ

又延暦年中に弘法大師ハ山ゑ来ゑ

中ごと樹ひ入庵し法ひ大ゝ形ゆ[illegible]海辺し波
新あつく大同ゆ中ゆて[illegible]光ゆあり[illegible]へ再度ゆ
中ゆ大比丘尼[illegible]中奥の周縁ゆあり毎ゆ三月十八日
佛會ありく法人[illegible]ふし

○観音三ゆ赤松判官法流度五部光寺[illegible]の西へ

毎こ新の嘶ゆ[illegible]ゆ

一蛇谷　日山間ゆあり

弘法大師入庵の所ゆ新ゆ[illegible]む清水[illegible]ふゆ
とゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
すむ中ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
又ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]

世大延の冥助ありゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
つく山ゆを蛇谷ゆ云

一神戸村　宇治川のつゆ紀伊國の村ゆ[illegible]紀ゆ[illegible]
こゆりゆの口ゆ走水池ゆ三つゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
三ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
○和名類聚ゆ神戸村ゆ[illegible]ゆあり

首神功皇后ゆ三韓退治ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
敬ゆ首ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]

一花熊撥法　うゆべ村ゆ上ゆ一村ゆあり

此撥ゆ事ゆ[illegible]十丁ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
山矢田新新花熊ゆ城ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]

伯耆守家盛野口与一長知等打て一ヶ月が間に
おそれて近寄ずいうのたの方ふのはくも二ヶ所くらゐ
ゑい西はこ元亀年中荒木志摩守村重ゆ
天正三年ひとこ居城し志摩守細川藤孝光利
加賀を攻て大ヶ一ヶ年中居城し大坂門
攻籠城の末に外西国伯耆兵粮を運送すると織長
公方御ゆよ攻くゑどこあるゑ海く大きに取合あるく紅軍
ゆく摂ゆ討まとりを攻へ紀列の一揆雑賀孫一招
来の波新蔵篠山城へ籠る西を池田信輝入乃勝入
四人ひとく変こ取合あり終よ天正八庚辰年七月二日
篠塚を今に城郭の古跡也

一河原兄弟塚　神戸村から三丁ゆ東南の中に
塚あり松二本ゆ源平盛衰記に源平盛衰の
位人河原兄弟討る由同じく盛衰記の社迫ゆ同
ひ先陣しく逆義来とのり越年寿永元年閏ゆ入一に
摂津の国乃住人兵庫頭助光ゆ矢よあくゆ先賞たに
討まとり義死の賞ゆよりゆく源義経ゆ及しここ
報謝云ゆ厳重に葬礼を建ゆ天正四年頃く
ゆ荒あるしよりとゆ塚ゆ神戸村ゆ
一生田森　神戸村から八丁ゆ衝乃方上ゆく
祠元　ゑすゆ問ゆ拠と清の宮元生田の杜乃秋の初風　僧都清胤
夫木　こそおと生田の杜乃秋風を萩のうちやこえぬらん　後成

平家永源平合戦の時平家一の谷乃城に迫まりて
大将軍新中納言平知盛卿三位平重衡卿和泉の山
乃麓の南海道まで逆茂木を曳堀柵を引れるを
見て西南一の谷攻落城の時文を書
城内へ投しとうや

一日大明神　　祭神一座

天照太神御妹之　秘

稚日女尊　　於社頭奏神楽

後神氏

日本紀に稚日女尊坐于斎服殿而織神之御衣也
神功皇后紀に云伐新羅之明年二月稚日女尊誨之云
吾欲居沿海長峽國因以海上五十狹茅令祭之云

御位貞観九年十二月十六日従二位
毎年八月廿日の祭礼より稚子の舞樹の花村民氏子なり

一若梅　　右社内にあり

一の若合戦乃と紀稚子父子二度のみ乃時梅の花を手
折梅花の枝を多びくしてこれ玉ふ
ヤ伝乃

玉葉　鳴捨くいつら生田の郭ひろ雪の下草踏人
一稚子歩　　日社内より
右戦国の三紀稚子平三系結び井の水を結びて武
運を生田の神より祈るよりのくるまづく
一敦盛萩　　日境内より萩花

太夫平敦盛山下の萩と覺しく和歌を紙に記し侍りしを
又敦盛の遺子あり名は新三郎平敦光又はあり名と云一の谷
へ落ゆきしの幼父よ山下に対面をしたまへ
古流をしるしとい萩だうりを

一城ケ石下の石　生田の森今三四丁北に西れは一村
あり梶原京都二度のうけ山下の石あり

一小地天神　日蔵さ宮村より
治承寿永の中平家大納言忠盛朝臣の建立
元より弘法大師作と云　和田乃みこ
元より弘法大師作と云

一生田川　森分東南乃の川より
小分南へ流れて布引の滝乃ふもと生田の池も

山下にてあり山下を射しこの橋を大和の
うりはるくうり来女塚の石くうり
義経恋乃涙の流れ生田川の水も
通経

一法の岡の生田の森の西六谷今ときは布引の滝　春隆

一生田山。日池。日海。日浦。日磯　後拾遺

夫木
郭公生田の山乃七めぐり先うめてをみも鳴ん　衣笠内大臣
日

月やうく治田の池に玉乃ゐに影あり秋の滝水　康光
三百ノ

おくれく八生田乃海のひりしに沉しこの長歌　弁乳母
六帖

清玉乃生田の浦の春乃夜の秋いとうるん　清人
ふ加

夫木
波乃心はの浦てつにより生田の滝水　為忠
一布引滝　生田川の西三町

滝二流れて滝の名所たる事余海道名所記 とのあるべし

一地こえへ入ること

千載 あるかなきのこゝろにてとんぬの滝 六条三大臣

新古今 たゝくこゝろにて清しなの滝衣手に井さゝ入あの一の滝 有家

夫木 あの一の滝乃白糸の長くたれ絶さしたゝの山路にうめる 定家

平治物語 去ほどの間、此滝へ清く流れ落ける波おのの玉の緒

人麻呂 ゆんだ 波の御紙 信濃 ゆきの命にうつく滝 つが 竜の玉 ゑ

雁 ごとり ど 手のごとる

滝のあるてに滝 ごう 名所 ごう 名所 ごう 名所 ごう 名所

たゝの寄 ゝ 稀 ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ

西源寺 ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ

一 御子山 尾張名所 熱田村の上流乃ゆく

夫木 ゆくの長れ御子山のあるものゆくの長れ 内大臣 ほ九条

一 小野坂 同傍 生田川の東小坂 ハ川すぢ

響 旅人の石高行小ひの八生田川小坂の木葉 晴捕

夫木 同ねも雨ふるそうはの木葉生田乃小坂に玉ひん 経平

○又生田の木葉毎日 月に 間程 敵ど 今生田村のつゞこ

中尾村今なまて

一 飯田浦 根溪村 芸 村 の 名 溪 道 を 溪 流 乃

田舟も同 ふ の 三大女 ん 富 女 上 老

後千載 ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ

詞多 ゝ 軽 ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ

夫木 波の音の高き松の木末をあらしすれば雪の花ちる 兼宗

一 生田里

夫木 稲葉をくれをそしたる雨ふりて生田の里の秋の雲 俊成

同 村雨の間は人のおとづれも生田の里の雲ぞ絶まり 西行

一 摩耶山 [illegible] 糸村・上野村の之

名所名歌抄 [illegible] 蘇 [illegible] 元二里坂の口上野村より

摂津国名所記 [illegible] 十八丁三ヶ所仏あり七曲とすき

仁王門より [illegible] 二百十壇

▲本堂 南向十一面観音 ▲夫人堂 ▲多方塔

[illegible] 法華堂あり

抑当山は天武天皇の御願世天皇法師人の建創する

所なり観世音は行基菩薩の刻彫の尊像 [illegible] 佛舎

[illegible] 櫃 [illegible] 観音菩薩 [illegible] 二の御光 [illegible]

[illegible] 十一面観音像の [illegible] 日光に持来

て大悲の [illegible] 人間又観世音

菩薩を尺六寸の [illegible] 彫刻して彼金像と胸中に納め今

本堂に [illegible] 並に [illegible] 那夫人の像と別殿に居たり

[illegible] 仏母二部山 [illegible] 天上寺と号す 額弘法筆

○夫人堂 [illegible] 梁の武帝の [illegible] 女人雖寿の [illegible]

[illegible] 帝を [illegible] 人の新像二軀一刀三礼して彫刻し [illegible] 一軀 [illegible] 今梁の

帝 [illegible] 納め一軀 [illegible] 弘法大師八角 [illegible] の [illegible]

是ハ昔なく者山よりおさまり給ふ
往者ハ大伽藍堂塔坊舎三百宇ありしとなり四方の仏
寺ふくびすをつぎ誠に掛列神社の名所なり四至東西
南北長廣の御廟を今坊舎僅なり寺領ハ
一本光院　一観正院　一豆蔵院　一明王院
一蓮華院　一大乗院　慈眼院
若門院
元弘年中ハ弁の城と称し公家心の城ハ五の山迴
しく叢石塚こうして今ハ古塚ばかり
一求女塚　又處女ヒ書　乙女塚
むかしの塚ハ女の塚ハ乙女とも

大略三ツあり　一ツハ　生田川東ハ水流村あり
一ツハ遠賀村あり　一ツハ遠賀川紙漉田村あり　名十二まと
夏業　いかへの小竹田おのゝ氏男　千男男
月　芦乃屋のうるひし女のかくうる紙人ゝ　福石
日　略ハ二乃木の枝ゝ乃ゝ中ゝ　月
日　山鹿ハ二天和歌浦　独木良材集ゝ多くゝ
ひゝ清の玉あり　その業ハ須女ゝ
二人ゝ　ひゝりハ同宮　氏小竹田男　今一人ハ
和泉氏千勢氏　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

生田の川よりひろごりをまきそのうへに二人の男をうひて女乃親ども山川に流さんとはかりあるを知てあく
まうをなすへきなんと云男どもはよりて行のこそいるうひ
うちとる者のひろごりを射つ今はひとりハ尾のうを射る
何と云ふくもゆゑ女ありひさうく

伯尾の藏分をそんはの宝田を山川の男をつゝきて同しこと
こゝ後く山川へ分をとゝけ二人の男をつゝきて同しこと
分をとゝけ果おのれ恨いとしく結こそ取ひけるとゝ
ぬ男ども山おやをを守ゆへ山女の姫乃ゆうに姫を結
うゆゑ山とさはの山ハ男の親乃ゆゑ同宝をこそ同あ
姫をせよ代の宝乃人い年ゆ山ハの主を犯べらやく姫ゆるふ

和歌の親ども山づゝより和ゆくゝをこそ絶よ姫あるる
山姫ゆ本柳の小槌とゝうけとゝ生つきりとの世とゝ
をとの色ゆりてゆゆり

[illegible]百 求女姫なんふかゆ山ゆ和ハ山ゆ和ハ山ゆ和ハ

多人山田氏より呼号の由今後義経西海
下向の節山浦ゆく雅風より過多人・時平卿之先祖
のり流るゝあり北谷山嶽りゆづりんげ嶽あり

一 御新の宮　薩摩系

色川新村の名源名不松系をすぐれ玄系中表八松
系のうらゝゆよりげ山

○御新山所伝聖徳太子母后三宮と敬ひ仏小
祠浦を造ゞ生身の観音と称し奉り
誓ひ雅浦の宮より光つゝ西方浄土と遥拝し
多人誓願浦ゆ南山のいてさ光物を

基俊

たゝ霊験遠里にて矢者ひとにも
て祈願容霊験あり称し奉る
山麓の祈願に則山のん多んと云へり

一 兎原清吉　同社　なもうこん三里の在の村氏
西景店教あり社村平川村てゞ清吉川く

西園寺

祭神四座所伝

○清吉　敬信野　中信男　仲之　横田氏

○天照大神

○国務姫命

○神切皇后

皇后三韓、さそう村清吉の荒魂玉神ようの
物く変小いろ働よ結命八百之結小元須ようれ

社こゝより船の出けるなり　能米浦と称す要ス

○硬石　社あり

○うつの松　る場の並木の間より

○立石崎　方角つまびらかならずつまびらかにも一説能米

船越崎と云伝へり川の末にて一村あり

能米にて見るの位置伝へ知るべし　海の松を遠

ら一面の武庫の漁を産の浦を小入るうらもとぐも

産と集つゝ山くぼ崎乃号ありとやいふ

一　湖の浦　大石村今芦屋の名　浜名といふ

夫木　浪ちるうのゆ山やまの雅波の思鶴入浦さうする　国信

月

一　山路崎　行所今西谷山の方田の中に設あり

山路崎　光明八幡

山路崎　光明八幡

以下本紙伝流判表表立命則矣船路乃示

○同湯　能米船着　北寄　長浜　横屋　魚浦

西長米　田中　山村　山路の名と云山海ちく

船と浦とく浦とも　河花祭祈乃行事ハ出ず

横広ちに伝ふる村ニ月中に祈ちのり

伝りけるふけの山路と云ふ慶長内名帳

船浦あるて伝ふ寺こうけ

船浦あるて伝ふ寺こうけ

月九　みつのすみ船のなを嘆ぬ　平忠盛

一　中尻稲荷社　東村ふ祭ひ　山新幣　浜江村

の海をこぎれば海の藻に入りかる村民
あまを舟とおもひ出れば前栽の藻を舟にして民おのく
榊をとりつゝ神をむかへ社を建て所の
氏神とあがめ祭る毎年四月の日神祭あり

○同曙抄　ふうえ村西にづまにあり
前は西にして藻村の稲荷の神事榊をふさへなり
をりよりかゝ海神といさ海へ入りかゝる云

一葦屋里　いにしへのかぶさの村こゝあり今川あり

同じ芦屋の里の晴る夜の月かたぶくまで　お藤内侍
ながめくらしつるむ方なく芦屋の里に秋風ぞ吹　定家
ながらふ古　ながめやる芦屋の里に秋の夕暮　家隆

○業平物語古迹　此芦屋の里は今は領地
なり　扨は業平は此所に暫くも程経しこの浦に乃焼火の業平
晴る夜の月の里の川名の岩に乃焼火の

○菟葉屋敷　古迹村の中にあり今は里に及び
迹は七百余町の所に菟葉屋敷の家と称し一つ月
毎を俗に菟葉屋と稱して お後乃業平と云云
に業平す菟葉屋よりて是を思ひ横笛を国に
為孤猫の身とゝなり最明寺入道時頼公法をあ
ぐく食へ猫をいうの縁侯をいまし光にかく月
為光とうりさへ菟葉と化問してをうつ西へ行
不仏を此しへ海をしりこの

○猿丸古墳　公光田桂山下の村の内外に古墳
のこせり俗説不詳猿丸古墳の石塔八川方東西
一鶴塚　芦屋川東の方にあり下に記す
　　芦屋川東の方に俵形改矢あり
　　俵形改矢あり
　　芦屋の浦小
　　芦屋の浦
　　芦屋の浦
　　芦屋の浦

に云、六十一年ことしくそと佛ハ

朝日サス入日輝クコノ下ニ金千枚瓦万枚ト云云

一 井出村　去康治日皇余ハいとのか根一村こゝの浦むゝし神功皇后三韓征罰しまひく築紫にゝり多人皇子生レ光則皇子この御子八幡大菩薩千剛皇一の皇子藤原坂皇二熊襲の皇子そとゝ多ひ軍士これく山淵ゝ集くく母と後皇后をおもひく南海ハ巡て陸海しまひし皇子軍士討死るとれくうら出の浜乃名あるとゝ山ゝり秋名所井出の浦ハ名ゝり

○爰氏ゝ者ゝ乃浦ゝ乃ひ玉藻ぢんゝ

一 河保親王御廟　去井出村上ゝ有ゝ平城天皇

貴二皇子ヲ三和深正尹賜一和泉の保親王仁和三年
行平帰洛ノ日配流の時此廟を遷されるよし 行出村
の間より則泉保山親王ゴとアリ 寺なり

○建武年中蜀山泉の波多流の山ヶ山嶽小切ヶ陸奥
一 宿河原 西ヶ方キ丁余西よりかろくの薦俗
あり九和の泉佛とゝでめし下ル和歌久
の庶射天日郡 新山をさして高泉の東ゝ泉のもく流山麓
一 御前沖 西ヶの浜蛭児の流ゝも云けとゝろハ
祢功皇后三韓さいばの[illegible]
のゞせの山崎沖の出ル海濱の小屋廣田の郷ヶ
れ毋ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

こと海をとおの沖おきの沖乃濱とやしく又矢ぶ乃濱
濱の兵庫ホと比比よ望あさんせ給へ去よりの山を山を
武庫殿と号し神功皇后紀ことこと
千載 ちはやぶる神代もきかず竜田川からくれなゐに水くくるとは
夫木 いにしへのしらなみ濱のまつかぜ
一商人 松列武庫殿より出る所民部のかみ
しれ民部のかみ

祭神一座 ○蛭子尊 世に西宮明神と称す
右殿神二座 ○大己貴命 左 ○事代主神 右
日本紀云伊弉諾伊弉冊尊為夫婦生蛭児
第三の皇子天照大神の御弟月読尊

此御社ざるにより天鳥樟樟船に乗せ流し棄ち
棄ち給ひ西宮へ流れ寄せ給ひ
て書ひしづきて海に流し給ふ
のうみし崇めなすべされば二神のくれ三男に
ものの夷三郎と十こりや海を統すり神
又孫武御ちりあり
摂社 ○久延社 ○綱清社 ○恵田社
○須川社 ○沖夷社 西の宮乃外田園中に乃
毎年正月九日神輿蛭子の宮廣田乃社へ幸

容和の矣と恐くるのひく人機乃乃乃和と聚の人
の後と成く村民〳〵戸と閉かへ出ぞ忌籠の祭と云
此旦法家名戸と開く社参と世俗十日恵比須さ
云六月十五日八月廿三日神事あり

於玉

恵の海の風心せよ和ぬやかにのこや多人ゝ世三御ジキン

ニロタ
おへ

〳〵神おこのつ奥示ろのあると和のとなまハ 教政

○又山和る民あと流の村新田義貞陣所

○推古天皇九年三月聖徳太子始て奏楽の術と教蛭
子の神よ芸さく商奏法護の神と今に忌び奉祭神
うて法商人あがりまるるの山附ろうとゞまる

名所記追加

一廣田社　西乃麦ゝり小ひろ〻村南ゝ方去ゝ里法道ありこ道
より三丁山きゞ二十二社の内廣田八幡宮神功皇后乃御事
又ゝ所の伝説
▲一ノ殿八幡　二殿八幡　三殿廣田
▲四殿南宮　五殿八社
毎年七月七日神おあり山日神宮を出ー諸人ゝ様歩又
八月十日後の神ゝの氏子是ゝ参ふ

崇社をよめる歌

六条宮太政大臣

今日はぞ分くゝ菖つめす虫分ぬ見ひろ井神に海ゝ
一氏庫山　凡てむこ郷波ゝ世り

夫木にそりはしや清澄てゝ底ハ雲かゝる山さゝゝ波立なり 公弘

今「柳の枝乃武庫のゝ孫はゝ多りて」ほゝ汁濁よりする白浪 井上太補

○六甲山　武庫の續きより有馬郡尾根村まいりて皆武庫六甲の山門なり當山ハ仲哀天皇先后大伸姫乃皇子かごさつとう忍熊王てんとう尚ドゆひて後神功皇后を惡て兵を発し三韓さいこを待皇后是を知のひく武門の宿禰をつ皇軍應をもろて麓坂王及ひゑ人乃族臣を誅して山改より埋其かゝと背ゑりを汲く云ゝ山と稱す

○甲山　右山續き武庫六甲乃半腹をとゝれ[illegible]ゝかぞのゝ上四方同面よりて面向不背の山也或ハ又乃基僧正こゝるに居く昆陽乃大池を造ら[illegible]めゝ其堤をとつて築

[illegible]ゝ[illegible]池山とも云

一　鷲林寺　ひこの山門なり山号ハ六甲山と云天長十年弘法大師開基なる土面観音乃像を安置ゝ是則大師彫刻の美備也天正年中信長公放火ゝ[illegible]ゝ伽藍ゝ及宝物旧記悉く焼失して後今僅ゝ某堂を造れ[illegible]を移し村人こゝ祭ゝ

一　感應寺　神尾村ゝあり山号ハ尼山と云始補咒ゝ云開山ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ観音弘法大師乃作浦潟つ[illegible]を像乃門ゝ納む旧記畧之

一　角松原　けのゝ町より二丁東

万葉天乙女いさり焼大れおゝ[illegible]ゝ[illegible]

一 沖戸村　右つぎふ一村あり
以前に為田瀬仲乃沖子びちよりあの所代よ立ー　敬原
仲乃内ー子幸寿丸の前を為田よりはとふしておさまり山
池水をあつめ家に埋ーより風越を付ちを松原山昌林
寺為心僧邪乃囲基を為丸石ちあり三月十日に池
丸の魚ち居と云　或八津門と云
一 鳴尾磯　海　浦　沖ヲよろ歌集
千載とはところ八都の方乃山の端も見え波鳴尾の浦よ出ちるを　出典
一 押照文　小まち村今ハ為田
おーて居の者を祭ると云へり
万葉　松ち丸て繁ちり雑波乃海部ーてろ家ことしちうへ　家拾

一 小松崎　弓尾後さ小まち村八御乃ちり六雑波婚仁ニッ
松と八　八松　留変　小松　式三ケ所を云
新勅　雑波ちさら風さ吹ち丸八小松ち傷よ千鳥鳴ちり　勝明法師
一 武庫川　大河
夫木　波の玉にありとて小敏武庫川流れくるを代をいなきくらか　知家
藻　むまの浦と為り前ー　いさり火海辺乃紅波乃ちり　人丸
一 琴浦明神　東彩田村
さがの天皇第十二乃れ子　藤大臣　従位河原左大臣　を祀ひ奉る山城
の国玄奈河原流よおて　塩竈社浦を撫ー　ちきさ山おより流を
吸しめ申ちを
松ち男に浪の相乃恋を消ハかり光のあそふあくちり

仲正

一猪名　逢川とく世還ふもしあり此川猪名川とも云
當國猪名郡池田川逆を云ともいへり海波漆冲川山流歌とも
一雑波里　たより少し一村あり尼崎今八丁戌ノ方
山所より梅あり　百濱西王仁の歌
古今　なにはがた　なにはがたなにはがたみじかくもあるかなるかな
一　姫江　同橋　あまご橋郡末村とも云ともいへり
しとも云當西成郡末村とも云ともいへり
仁徳天皇北御宇より那波より江りしその流れ廣くし
て田園すゑし　森邨よりあへ潮のぼりて苫里迄絶ぬ其の如き郷
ふかく掘南水をひく西海より入んこのまて堤を築ぬるせのよの
所を姫江と云傳

ゾウ　ゾウ　ゾウ　

所々名所の始り寶永七の寅年まで

一福原の遊廓　五百餘年
一花熊屋敷　百三十年
一はきの浦　八百年余
一摩耶山　千三百年及
一つまの氷室初り　十三百年
一伽藍ちんたう　八百年及
一稲荷宮　三百年
一祇園宮石　千五百年余
一日石碑建　二十年及
一白川の墓ぼり　九百年及
一はぶ山開き　九百年余

兵庫名所記巻之上終

兵庫名所記巻之下目録

一福厳寺　○自然居士の井
一福海寺
一二本松
一真福寺　○さうせ川
一和田の笠松
一一遍上人塔　○真光寺
一びんぢう
一清盛石塔
一八棟寺跡
一渚沙の八江
一月見の浦所
一萱乃御所　櫻御門殿
一魚乃御堂
一薬仙寺　○長谷観音
一千僧寺跡
一灯籠堂
一和田のこう記　日海入江渡り
一和田明神

一大和田の浦
一本間遠矢
一延喜山
一匂ひの梅
一源五塚
一長田大明神○月里
一蓮乃池
一鑑後法寺
一妙法寺○車村矢拾地蔵
一淀の綾橋
一兵庫古城
一内裏屋敷
一真野の池 淺福里海浦
一通盛塚
一新藻川
一明泉寺
一西代村○七ツ井
一禪昌寺○鷲取山
一二葉松
一忠度塚
一盜人松
一勝福寺○大手村聖天権現
一因幡藥師○稲葉山
一礒馴松
一鏡ヶ池 多井畑
一腰掛松
一若木櫻○漢竹
一須磨乃関屋
一一の谷○ひよどり越 ○鉄拐が峯 ○安徳天皇御遷幸陣所 ○巖石落 ○鐘ヶ掛松 ○坂ぐち
一飛松
一月見の壺
一光源氏古迹
一行平松
一綱敷天神
一須磨寺 天室付
一海の山

一上野　○二の谷　○三の谷　○鉢伏ヶ嶽　○日の山嶽
一敦盛塔　一須磨の浦　○こうり江　○こうり川　○樵次ノ
一境川
一山田の旧跡　二ケ所
一兵庫十景九題　一須磨の浦十景九題
一福原観音札所名目　一所々年積　上下後丁ニ記ス
一兵庫より西へ法方道法

兵庫名所記巻之下

一福厳寺　兵庫西の町にあり

巨鰲山福厳大聖禅寺と号す。開山佛光国師なり。

後醍醐天皇隠岐の島より御還幸の時、三年ヌ二四の年号

脇日尚る小一帝皇居の不なり

高境門小自然居士誓居の山で井をひらしむ水こ

くして湧する事なり今久遠寺の泉門ホ

一福海寺　同所南なりびるり

大光山福海興国禅寺と申す開山在菴普肯大和尚

尊釈迦運慶作名品軍源のそる氏こ祝国安氏のため

創一の延文のひそる氏はくしゝ寺のゝ沢芸能

山号寺号なり往昔仏二十面と伽藍堂に高さ五十
中尺奥ひろく厳宇清舎悉皆けわしく後今荒れ
破ふ云

観音堂十一面大悲なり　弘法ゆかりの
仏なる故なるべし多門天の樺沢長兵衛
一二本松　右寺より東南西四八ぞの上
建武の頃足利尊氏卿
一真福寺　長庫西南の町のち
當寺八角柏子妓王妓女両墓　中ち観世音ぞう則ぎそう

の寺と佛小像なり一仏寺より南今石橋に二小川あり
逆瀬川と云丹波の丹波ねぶし畏畏う流罪のこれ
なゆえ小さうて川とあり
一和田の豊松　右川の南ぐこ
傷陸の松なり
秋末まで枯まる事無して作法ところ法仏季
枝末まで枯まる事無して花咲く稲荷仏　乙家
一一遍上人の御廟　同所
西月山真光寺　薬沢拾ち　元祖一遍上人の石像白月
田のち迴玉の御正庵二己廿年八月十三日寂して逆化
一御年八十位又元禄八癸年　六月十日に四十四代

一遍上人を通御寺にとゞまりて迂化したまへり

元祖上人石塔の尊び小塔あり

當山往昔仁明天皇の御宇に惠尊法師入唐し宗
玉小謁ゐ帝大悲乃菩薩像を賜ふ歸朝の時小舟に
乘てうふ順風忽ちにして船の不意小つゝ時船こゞず
惠尊是をあやしみ大悲菩薩の尊像にうつして法の如くに
安置ゐ、多んぶ沒んどんの至誠觀音淨八寸八寸乃至像なり
小堂の右ふわり時宗元祖上人とゝ興の開祖こゝす

當寺什物記

▲蓮家自畫の像　▲人丸自畫像小定家の讃歌

▲業素乃石碑　元祖上人四十代住職八畳之

一淨土之二

一淨土塚　真光寺の系譜と所の伝なり

但馬守平の經正の御遺骸を葬る所

こゝもあり又一説小曰都小一てび青山乃淨土と號し石ゝ

遊式傳小引てうぐんぐ御の補小記く龍のかく

一清盡石塔　びとゝ所の京ゆい小塔あり平乃三ぶり

八乃淨海於六京ゆゝ東乃和元年ゆの国二月四日乃六十四

ふゝゝ薨ゝ乃ゝ御遺骨小多寶法眼代福京小拾京

アゝ之ゝおゝゝ是後石塔ゝ試ゝ立て小寺七代最勝園寺

平の貞時代石塔を建の小弘安九年二月日と墓石ゝあ

其塔

一八棟寺の迹　右同所清澄寺山背堤二有
天正の比退転して今石ぶとの沼の清澄山立世三来安二
年に山寺と号ス　元亨釈書ニ見ル
一法海乃入口　又沢仏　同所下
一ハ長ス　あぢ川行きさ乃入口の藤沼のわき流れ出ル所にて　嘉
ミレバ　又さご寺乃法海の入口ハ　一名ハ小ぶしや人小ぶしや乃ぶ　叡運
一菖乃御亦　同所南京の方迹の切り清澄山
芸の四所ハ　又禅の堂ハ云ハ所ハ三間乃板屋ニ造リ
後鳥羽の法皇ハ建仁二年七月十四日列の流人文
学上人ハ召ひて乃ち山所ハ　法華経ハ　辛崎上人ハ
一奠の御堂　同所大鹿山宮居真福寺ハ　大滝

冠ゐ給ふ皇胤女性に拵ゐ給ふ天正年中に彼御沢異名
をゆるぎの門と云遺跡臺石沢山今異名
一薬仙寺　清澄より一町南
殿西王山と号す天平二年開山法印　天台流長
聖武天皇行基僧正に初言ひ給ふ開基一乗法華
宗二ヒ西の年東都昊山虫阿上人時宗に改宗せり
観音ゆり吉海に傳来則和州長谷寺同形にて仏
なり又当国に南愚自畫に絶勝鬼乃絵也宝物也
一千僧寺の跡　右寺八南今会原の三昧なり
萬年山と号行基僧正の開基一乗人の傳さいうち伝ふ
亦なり　亦田光大師さねきに宗へ門下向の長菊流

おいて弥陀経一千巻会仏一百万遍ゝを修し一切衆の
決帰ひろめ仏事浄土正源名義集よりあり

一灯明堂　千僧の南和田の原乃門

たゝらゝ入たはわざ汐みゝ見ゝ者ゝ立て持統天王八集
百万灯ゝを行ひろめ仏事不今退転いしずへの法ゝり　西行
山家集　きえぬ間ゝ見ぬ世ゝ人ゝ灯ゝ乃灯ゝ消ゝ消ゝ哀わ乃ゝ
庭前の流ゝ氏ゝ流ゝ氏ゝ乃ゝ　庭の流大鏡　為四氏乃ゝ源れ
なり

一和田ゝ磯　同海　同入江　同浦

兵庫南海中辰巳向ひ小さゝ島ゝ有り
玉葉　夕暮わたみ浦ゝ漕船乃行帆小舟ゝ武庫ゝ浦風　入乃前
大政大臣

魚ゝ沈風ゝ宿尾乃和ゝおとゝ也て和田の入江ゝ波ゝ月新　覚性
法本

一大和田浦　和田の南ゝ流ゝ沢海ゝ也

大本　おなじ浦ゝ也今ゝ舟ゝ船とめゝ流ゝ沢ゝ辺ゝ川ゝ也ゝ
万葉　漕きゝ漕ゝ海ゝ沢ゝ代ゝ代ゝ子ゝ船ゝ泊ゝ乃ゝ和田ゝ浦ゝ　不知

一和田明神　兵庫南浦ゝ長ゝ所ゝ乃ゝ也ゝ山ゝ文ゝ八方治
年中ゝ洪水あつゝく南岡ゝ乃ゝこの河辺ゝ乃ゝ山ゝ西ゝ流ゝ
あゝらせゝの　毎ゝ年ゝ月ゝ廿ゝ三ゝ日ゝ祭ゝ礼ゝ三ゝ四ゝ国ゝ上ゝ下ゝ の渡ゝ船ゝ成ゝ社
ひゝうゝを行ゝ乃ゝ其験ゝ形ゝ也ゝ

一兵庫ゝ陣

天正ゝ年ゝ沈田信雅ゝ為ゝ也ゝ　ゝまの弥有臣ゝ生ゝ城ゝのゝこゝ　福田乃
正乃ゝ帝ゝ山ゝ陣ゝ を守ゝ乃ゝ中ゝ間ゝ郭ゝ今ゝ よゝあゝり

一本間遠矢　和田ノ浜ヶ三丁のかなた

建武年中ニ武蔵ノ国ノ住人本間遠江守重氏ト云者ノ子孫西郷重氏ト

和田の浜より相模の御船へ矢を射くるをあ[illegible]しむ

一四郎屋敷　[illegible]武系ニ所ニ[illegible]五拾丁ノ中西面シ

福原新兵衛安徳帝御行幸の四郎屋敷ノ[illegible]四丁ノ方築地ノ

跡あり和田の船ヶを今水の子と云

一延喜山　和田乃系ニ

碍酬天皇行幸あり[illegible]流してのゝまるく山所王城乃地勢ハ

[illegible]ここに一つの山出てゝ[illegible]築地のしゝ今るをよこ二丁ニ三

丁ノ中山あり延喜ノ[illegible]ハ[illegible]山の名と[illegible]

一[illegible]　浦海里徒[illegible]　[illegible]ヶ十丁余ノ[illegible]屋敷村[illegible]

[illegible]ノ[illegible]ヶ小麦を[illegible]ハ[illegible]ノ[illegible]人九

[illegible]踏[illegible]ハ[illegible]ノ[illegible]ハ[illegible]ノ[illegible]人九

[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]ノ

近江の國人木村源五重章こちらと打記

一 落ち川　在海ノ西の久だうのかり橋あり

あいらの宣傳　平家ものがたり藤原三元　藤川　苅藻川　こもうら

海ゴ　堅の池　在海ノ見渡の林を左手ノ乱し　板屋と流ル

と打ちくゝのをさして海ノ方へ流ル

一 長田大明神　落ち川はぎき右ノ多景あり　額道

風の音こゝる物　並木八長田村の内毎年八月十八日祭礼

▲祭神一座　事代主尊　祇社二座　神主大中臣

神室ニ九穴ノ貝アリ

神功皇后伐新羅明年二月皇后之船廻於海

中以不能進更還務古武庫水門而トス於是事

代主尊誨之云　汝吾于御心長田國則以葉山

媛妹長媛令祭

○村上天皇應和三年七月十五日於當社雨祈アリ

一 長田星　兼仲

夫木　長田もめぐこの里の苗取

一 明泉寺　長田村奥天照山と号大日如来あり

一の谷合戦のとき越中前司盛俊伐而又武遠平紀章ノ

はらあり

一 蓮の池　かぶら川つゞき

此池ハ沼基ハ川天平年中ほり世ゝ農業旱魃の愁

なくらんがためと蓮の一社を池ほとりへ八功德水と称し

そもの花と号す

一　西代村　　日ろくび西の二村あり井ゐけ八ヶ所ほどあり

高くとゝ八ヶ所ほどゝ原のうしゝ原のうしゝ原のうしゝ

井ノ坊

一　盛俊塚　　西代村西山ノ手田の畦あり

東西南北大和ちうのおの日とりやゝ原氏方盛俊ふ平六

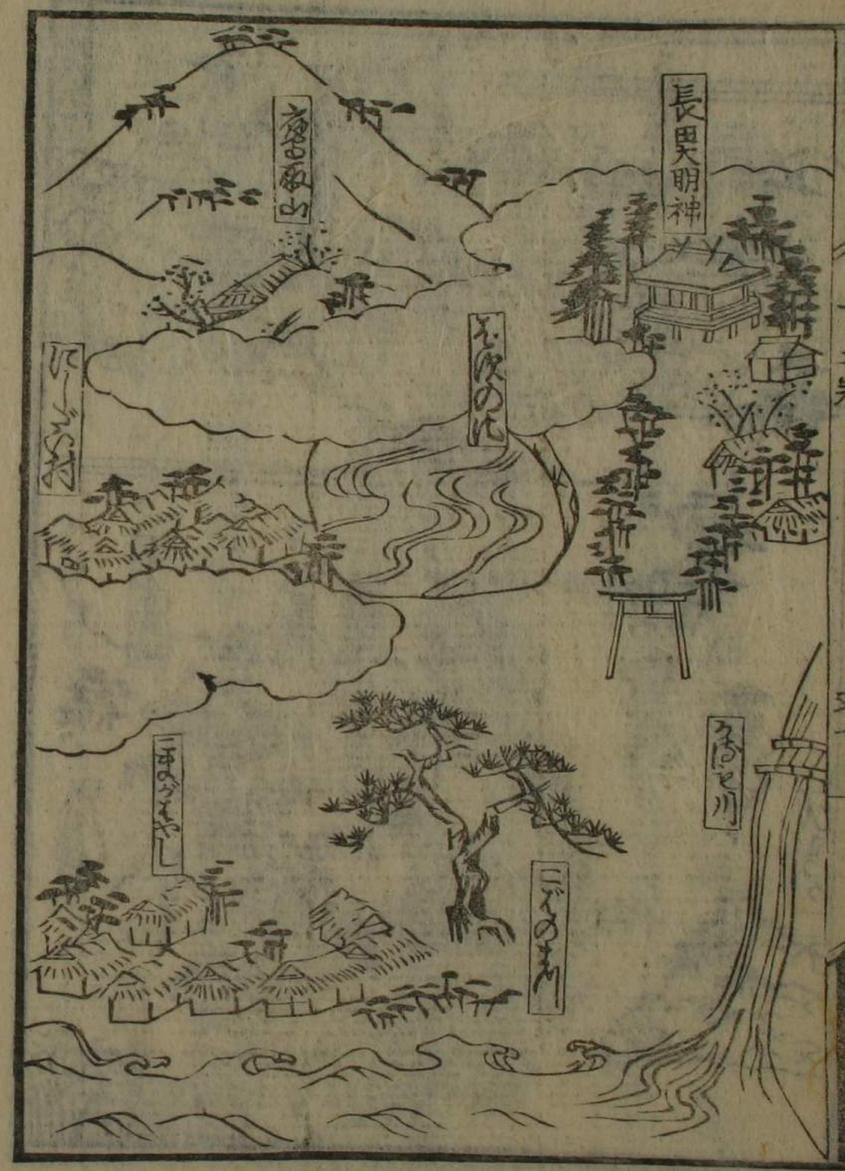
則盛と組合のうつる源ノさく盛俊と対

一　禅昌寺　　そもの花と山内

帝釈神拝山と号す開山月菴宗光大和尚　後光厳院

延文文中御勅願のもとゝなる物辺恵教彫刻嵩山八豊

長云政変よりあひちかとうしゝ安ゝ中上用今吉と賜り



聖跡を復興したる所なり　又此山上の山を神松山と申　又雲れ
山と号　昔神功皇后三韓帰朝あつて是よりゆり石苔あつて
いまの上をなでゝ忽る山とゝよろこび神松山と云　庵和
尚登山して暫くあるとゝ雲を掃の霧深く冬枯寒ゝ
流ず居ながらく流水とゝの経巻るこゝの其後和尚六十
四年にして康元元年己巳三月朱三日遷化しのち正覚大祖禅師と
贈号あり

一妙法寺　其の所に立て沙山なり
高言妙さ山と申　船盛のもの孤しなる雲見沙つ天大仏し又色より
十丁ばかり城山なり　車村と申　矢拾地蔵かあり
一二葉松　一名ゆ又杉　又陳氏松とも云

的の林村のほとりにあり
はるぶきくあり
名所いにしへの的の林乃松これハ梅しゝ
一淀徒橋　去年の花より空中海辺ニ咲ガ林ノ外
今ミワ三ヶらめや淀の徒橋しゝとたふ雖面人を云ふ落ると云　去実母
京名所集　又乃ハ名にとどめつゞ橋ゝ乃しより降るく落るまでのうらのふ
一忠度塚　こまゝ林ニ下ル
河まるまのたのう一谷落城の日ニ六弟大夫忠度ハ討ル
まよりうゝ会ゆゝ行年　平家又藤ハ兵ゝ三里余ハし
梅乃明石人丸墓のやとりよみゝ
一盗人松　右の次聖ハ村ありむしハ二ヶ所ハ梅

て今ハ中大夫ゝ山松海岸ゝよりつく白浪ゝ岸ゝ陸ゝ乃
ゝ西人の若ゝりとう　又ハ川梅松ゝも云
○ぬゝ人ゝ白浪とゝ中ゝ浦漢の張角ゝ云りのむ浪ん
を発ゝ一餘ゝう白波谷ゝ云ゝ中ゝ乃ゝ居て賊賢城
おゝ一取ゝう浦の人足を白波賊ゝ云ゝ陸ゝ乃ゝこゝ
ゝ盗人の異名ゝ云ゝ乃ゝみゝ云
一飛松　板倉村ゝ
菅原桐流ゝ梅梅松の三本を愛ゝ
ゝ菅原ゝ植ゝ乃ゝ沈梅ハ梅松ハ三ん
ゝ梅ハ折て松のゝ枯ハ
きゝうゝ乃ゝ浦ゝ船を和田乃浦ゝ乃ゝ

うを実れ俗四枝さかり丸一本の松を極く名を尺ホ
乃毛り

一勝福寺　　西代村今又下けいの丸の上に元禄
厚き実拉況の社こもるかく大き村ノ上よりあり桂尾
山と号ス一条の帝勅願所也聖徳太子春日の作開
さん法師上人云也是宝あまたあり中ホも牧溪思
恭筆たる三尊阿弥陀ホの絵おのく仏法と弘法大師
所持の陽枝又岩屋つきじ法伝来の時ノ懐十二ながら来
仏尊ホとも昔八坊今者ハ僅ニ

宝光院　　遍照院
（系法坊）　（桂ホ坊）

東林坊

一月見の松　　長庫より一里半東次広村ノ上山の中腹ニ
松十本余あり行事神社云月見の四松と
○周懐系所　　○稲荷山　　号東次ノ上
一ひう所源氏ノ古迹　　けうちう
仁明天皇のれ子光源氏の君次広明石の景色よましく
爰ホ斬くまき秋を送りもの人ホ
一夜駒松　　東次広ノ丁目ある村頃辺すべての松を云
行平宿に山猫ホ化けるの人三と勢ーして夜泊ーの人名ホ
を慕ひて松の左ぎ名所の方へ行くと云　　後歌
後歌　次広の国法ホ立居を為ル下枝ホ浪のうねり見ル
一　行平配所の松　　ハ化ケ猫ノ東次広ノ下

中納言あつまの行平任和泉守中納言ハ流謫ありしこゝに
植たまふ松ハ今ハ木こゝ由ハ松と云太さ五ひろ余り
○山ほうと松風村あり乃同跡と云二人の浦士の古迹ハ
是より一里山奥よ海井の畑と戸ヲ姉妹の石塔あり
お出ての池とも
ゆくらゆく同の人あり次ハ海ふとり俗ハ俗と答ハ
○鏡の池　海井の畑村よりあり　行平
行ひら流謫の配流のもち俗ハ戯きうさ次ぐ乃徒然の松
の勢むくさめの女と乃ゆ人行平ハ海ノ浦り所ひ
て後二人の松ん乳すぐさちの哀ハとこひ者さこの
ちゆ四ひ歩くたがいよ山水ようき併を稼ぎ家ゆられ

ハとく鏡の池と云
一　綱敷天神　行ひらの松の西
菅相公を祀ひや社なり紫紫ハ紫さの文記ハ山浦に
永を送む漁者船人鏡を捧げて遷座るにし哲者浦
の景色を詠めの所の人形像を写し祭て徳を表
と称す
一　腰掛松
次の木くれ三位平の宗盛次ハ戸のぐさ記かいたノぐさと今ハ植
松長ハ生掘きく山松ハ休ま浦人鬻酒を掘ゆ
ハ三ひろ二一由
ちほろの浪あとを歩ると次ハ戸での所ころ次ハ海

一須磨寺　兵庫より一里半余西のかた上ヶ
上野山福祥寺と号す本尊観音は開山聞法上人
作須磨ヶ浦ハむかし天長の治和田の岬の海底に毎夜
光明かゝやくこゝて碧天を照す法人是恐るゝ漁人
あやしく網をおろし魚をとるに一つの檀木観音の尊像を
ひろひ小宇に安置す其尊像あらたなりしかは勅延
遠を光孝天皇仁和二年より開闢上人を勅して須磨
の郡上野と山よりの麓に一山を創し給ふ勅願所
金の御勅願所にて寺其後久壽年中に源三位頼政諸堂
寺社を悉再興ありと云ふ領御朱印あり
又其後桓武天皇の豊臣秀吉頼政再興

○本堂の厨子ハ頼政寄附の遺物
○楼門ハ金剛力士皇三家の彫刻父子相ともに彫刻
須磨寺霊宝ハ弘法大師作とゝ人ゝ共に器
▲毒葉の笛　弘法大師作　▲高麗笛　祐孝作
歌　撥なしたゝふ波のうへ行のよりはひしーと吳ゝと聞
▲敦盛赤旗名号　法然上人筆
同　三尊寿丸　三尊ゝ丸で絶入て孫施の蓮とともに生る
▲母衣絹名号　法然上人筆
同　法の水　善と悪とでなきおくも心行やはあとぶ佛一カ
▲敦盛幼少の時の名弘和歌二首　一月甲冑あり
庭松　かゝやくに同きてもみるぞはんなまぶるうれしかの

宮松ニ祝ス云々

▲若木桜制札

編るる松よりとせの経て久しるまでも彩の山風

武蔵坊弁慶

須臾の桜　吐華江亀而一枝折盗輩者

任天永紅葉し例伐一枝者可勤二一清

寿永三癸二月日

今坊全十二宇

一桜寿院　一大聖院　一慈眼院　一東林院

一蓮生院　一不動院　一華厳院　一正覚院

一桜本坊　一枝々坊　一安楽坊　一東義坊

○漢竹流図よりあり吾神功皇后新羅伐のとき紀ノ国

松浦川にて鮎を釣給ふ故名付給

やなく爰ハ思ひ根ハ深さうへ今をを根ハそびえたり

一若木桜　須磨のあよめ

むかし源氏の君ハ須磨の浦に居給ひし時ハ須磨屋ハ桜ハ未ありと源氏の世をよいてうしあ未ハ世さへ〳〵ハのうに成ぬ

宗乃寺ハ紀うらうくとを

桜さく風ハ世の為ハ未ハ

千載　思ひ出て春の世ハ為ハ未ハ桜ハ

一後の山　月上乃山ハ

天木　月ハ出ハ海の山ハ雲ハ晴く波ハ

千音　三ハ人のおもひハ出ハ山ハ

須磨寺の風景

定家

為家

為氏

海より流れ入る小一の谷右我陽の北より極楽の新流が
を一里十余坂湯場と云の十里余坂ハ小流ち紀
路越の山峰峨々峨々として峯を重ね南海紀の
路流れ富和泉の浦ヶ雑波合まんくにて塗海船あ
り遠ク見九柴万里に流る紅葉の間々に月の入の松の
平地配所遠く顧きび後楊ヶ峯遠ク松ハ山ハ雲も
なめらかにて垂下ハ青ヶ苔の色ゴトに新と
あくまで開く名来の横溪巡ハ松風樹梅の白花
一本ハ雪もまとを梅ヶ花の香

一流二の実谷　次まる陽流を東西に流れ出る
ちめ名ハ色とそにすり人やのう色とそ山ヶ水の

金葉　あこぢ潟西ハ海ハ見ハ世絵ざ光の次ハ乃関守書
○鴨越の道てろいが峯ハ獨小より東へ向ひおろ乃ろ
小一の谷流揚ヶ谷ハ義経乃陣所ハ
俗云流揚仙人ハ気を吐ハ我ハ桐を現し仙境ハ
流ハ粒歴すれ人ハ見ちと云

一一の谷　流流ヶ谷より西ハ
此谷の長さ四丁余横弐拾乃ち
凡二丁余二の谷ハ幅乃ち二十四ヶ乃
一　安徳天皇御遷幸陣所
寿永三年平永一の谷城ハ山平ハ自是ハ
一き陣所小三乃ち方ち乃の流ハ二の谷とのせり

合又一ノ谷三の谷の名よ法勝寺殿の遺あり山ゐを流シ乃
上野と云
我恨ケれ流デの森の露ぐるよもをを地名ゆ藤衣浦の
二ノ谷のもさ三十余よこ八町ゐるさ九町谷ロ分流れて七十町
余一ノ谷二ノ谷の町二十四町餘山乃ふ　坂落　巖石高
険阻なり
三の谷のもさ二十余間十九町ゐる九町谷ロ分流れきて
十町余二ノ谷と三の谷と乃町ゐ三丁
一　敦盛落　　三の谷の岡辺還れ少上て
太夫平敦盛年寿永三年辰二月七日一の谷落城の日戦死
次帰重衡よ討ゆの生年十六歳空顔瑞清大居士

此石塔あの蟹の霊魂を慰主ものと云傳へり
高さ一丈一尺臺石曲尺四方五つ[illegible]
○又此塔の上より山[illegible]泉あり[illegible]井乃流れ

敦盛石塔

昔斯地有戦場名　流血染残嬾木櫻
須磨浦風散花夕　恰如熊谷打敦盛

一休

一鉢伏峯　三ノ谷のよといふ
菅神功皇后尉を退治仮名わつて山に登りけぶり
士卒を集めゆ甲をぬぎて伏名軍功と崇れ
ま伏乃峯と云　書て盛と伏ま[illegible]
一頃まで浦　兵庫ノ一里東西濱と今村と

摩之川は山城と河内の川あり　俊成
千載　天雲の八重雲ながら海うちの波の上の浦へ　人丸
拾イ　白浪の寄せくる浦の浦なれば海の底なる人もとけふ
海の海松をとけふ　須磨の浦の海松をとけふ　エケイ法師
○隱江　須磨の浦ッ云　○摂津の海
六帖　ふかりけく隱るくらもの浮藻の如くぞ人こひしらる　ヨミ人しらず
万葉　こゝろ須まれふかりけく生ふる浮藻の如くぞ人こひしらる
一境川　兵庫ヶ二里
摂津と播磨と国の境なり細川あり源氏平家の戦場の
村八東生田の杜と迄と西播磨八播州塩屋村迄と限つく
平家城内と須境川ヶ境村まで拾丁斗西熊谷ヶ蛭実

平山季重一二のうけ先陣あるべき由
○境川ヶ西播州ハ二里須磨の浦、海上三里程
寿永三甲辰二月七日一の若合戦平家討死の人々
元年二月　元暦元年二月
一あらせの二位通盛　三十七　木村源次ウツ
一義人を文業盛　十七　七郎ヶ手ニ対
一あらせの清方　十六　一かるの清貞
一むさしの国の知章　十六　一たゞの海の国の清正　敦盛ヶ弟対
一ひろさうの経俊　一安房の友方文教盛　クニヲ人ヶ対
伯大膳ふい一ヒの平ヶ盛俊　一盛教方
山ヶ与と宗盛の手ヶ手ヶ人と軍ヶ示ヒ

所々に数の残りし寛永七庚寅年まで

一 鞍馬寺宝殿　三百七十九間　一 茅仙寺　九百八十間及
一 鞍馬寺宝剣　三百七十五間及　一 稚児宝剣　三百六十間余
一 一遍上人　四百二十二間成　一 須磨寺　八百二十間及
一 同岩屋上人　十六年成　一 大師堂　七百二十間及
一 信貴山毘沙門　五百三十間成　一 一の谷城　五百七十間成
一 同　石像寺　四百二十間　一 湯泉神　八百二十間及
一 菩提樹　八百十年余

矢田部郡丹生山田の庄旧跡二ケ所　兵庫より北三里山中

一 梅雨井　系図封栗花落氏の宅なり

水の湧出る間長四尺余直三尺深さ三尺ばかり水絶えず湧れ
ども梅雨に入て心地悪き出る山水口とゝ門て入梅乃日数を
定む五月栗乃花の落る時梅雨の時節なり人皇三十代
仁徳天皇の御宇朝廷より此地に横萩右大臣豊成の子乃息
女白滝姫を恋慕く思ひ入て白たき丁の和歌をおく

中ねひめの歌

雲ぶたに月かくれぬ君ゆえ白滝の男よ
とよとて なびかぬ君と云て雑面切りを三ハなをあこがれ

是より返事ヤうば得させんと申されハさるの屋ゝて
こゝの川乃稲ゞのもゆれこゞ屋さよ田子おちよ白川の水
と申ておりをる八幡のきさう彼ゞ心ばしの御うらめしと感ゞ
終は帝小ぶ〻て白ゝ元ひめを共携ゝ京より送ゝ帝より綸旨
ゝ天國乃御剱をゞじゝの子長さ二尺六寸ゞ其後白川一男を産て
三と芳の内外はゝうめひね仲丸にあゝう遺骸を屋しきの東北
にほゝむり祠て叢祠とゝし兵戦天ゝ犯ひまゝゝ水わさ
おゝ小却りて梅丸を祭む

一鷺尾旧迹

家記 桓武天皇の皇子葛原親王十四代安濃ゝ三良貞盛ゞ
孫弃名ゝ良清綱ゝ始て鷺尾の姓をあゝ三ゝ代男武

久をこゝ一のれ乃庄ゝと号し山面の庄ゝ居住を係の武弘一の谷
戦場ゝ出ゝ三ゝ乃雑兵を越ゝ小ゝ代武久案内者ゝ應諾
して生年十七になる一子を鷺尾太良経春と云
大将乃譚をゝ小ゝ一は鎧小ゝ他ひ人馬子の勇士なり
武久ゝ兵具ゝ小ゝ賜ふ

一太刀 一振長二尺七寸 大小ゝ長尾

一ゝゝ 一流ひの内

一武蔵坊弁慶長刀内太刀 長四尺三寸

一兎井六良太刀

一桜 一腰わりもす武久ゝ〻ゝ〻

石代ゝ俗ゝ長ゝ三ゝの太刀ハ関白秀吉ゝ〻ゝ献を

兵庫十景の題 扶桑名勝詩集に出ル

籠梅早春　湊川清流　經島炯月
兵庫帰帆　福原旧都　布引飛瀑
廣田神社　和田岳松　武庫暮雪
生田晴嵐

須磨浦十景乃題目

若木櫻花　上野夏州　関屋間月
兵庫級帆　後山帰樵　武庫晴雪
塩屋暮煙　須广寺鐘　一谷古戦
磯馴松風

福原三十三番観音札所

一番　兵庫　菜仙寺
二　東尻池村　法立寺
三　駒が林　海泉寺
四　駒林村　慈眼菴
五　駒林村　松源菴
六　同　松月菴
七　野田村　正福寺
八　東スベ村　浄徳寺
九　スベ寺　福祥寺
十　大手　勝福寺
十一　板宿村　禅昌寺
十二　湊田村　妙示寺
十三　長田村　福壽菴
十四　夢ノ村　長福寺
十五　島原　願成寺
十六　石井村　灵善寺
十七　平ノ村　東福寺
十八　荒田村　宝池院
十九　坂本村　龍泉寺
二十　花熊村　福徳寺
廿一　兵庫　極示寺
廿二　兵庫七ノ三ヤ　神宮寺
廿三　兵庫　西光寺
廿四　同　恵林寺
廿五　兵庫　法界寺
廿六　同　来迎寺
廿七　同　金光寺
廿八　同　福厳寺
廿九　同　福海寺
三十　同　永福寺

世一 兵庫能福寺　世二 同 真福寺　世三番 同 真光寺

兵庫今法方位ノ方角ノ法　町数ハ京ヨリ西ハ西ノ方角ノ名ヲ付ル

一すまでら、　六丁
一いくさ、　九六丁
一布引滝、　一里余
一いちの宿　三里
一ながやさん、　二里半
一こうげ、　三里
一あしや、　四里
一西のくち、　五里
一次
一京、　十九里余
一伊せ、　京通り　九十二里
一江戸、　なかの道　百十二里

一すまでら、　二里余
一こうやのたき、　二丁
一はるのこまき、　五丁
一あがさき、　九丁
一ゆのぶち、　一里
一すまでら、　一里半
一一のたき　二里
さらの川、
一あしや、　五里
一同　三木、　七里
一同　ひめじ、　十四里

一すまでら　三里
一ありま、　七里半
一三田、　七里
一こうの、　七里
一尼崎、　七里
一えびき、　八里
一大坂、　十里
一むろ、　九里
一とも、　五十里
一あぼま、　九十里
一下の関、　百三十五里
一かろ、　百三十六里
一長崎、　二百九里

史福原ノ都跡兵庫ハ前後ノ名高キ古迹ナリ然レトモ右ノ世知ル人稀ナリ西ノ方ヘ行ケハ来ル人ハ多シ其書モ少シ志ノ人ハ近世國花萬葉集摂州群談ノ書ヲ行ヒ之ヲ部類シ詳ニ有ヒ雖シ大部ナルヲ免スルニ惑フ次第養又順序ノ脱漏訛謬アルヲ免レ難シ称ヒ愈止事ヲ得ス遂ニ小伝ヲ汲江鄰族寓ノ中ニ於テ梓ニ鏤ム道知遠ニ倘人

寶永七庚寅八月良旦　摂州兵庫津　菊屋新右衛門